

研 修 区 分 表

平成 25 年 3 月 12 日作成

科目・教科	研修時間				到達目標・講義の内容・演習の実施方法 実習実施内容・通信学習課題の概要等
	通学	通信	実習	計	
8 障害の理解 (3時間)	3			3	<p>(到達目標) 介護者として、障害者(児)を支援するとき、どのような考え方に基づいて、サービスが提供されるべきか、どのような目標を持って支援したらよいかなど、障害者福祉の基本的な考え方を理解することが重要です。障害者福祉を学ぶ上で、「障害とは何か」という課題は重要な事柄で、介護における基本的な考え方について理解している。</p> <p>(修了時の評価ポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の概念と ICF について概説でき、各障害の内容、特徴および障害に応じた社会支援の考え方について列挙できる。 ・ 障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方について列挙できる。 <p>(指導の視点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護において障害の概念と ICF を理解しておくことの必要性の理解を促す。 ・ 高齢者の介護との違いを念頭におきながら、それぞれの障害の特性と介護上の留意点に対する理解を促す。
(1) 障害の基礎的理解	1			1	<p>(内容)</p> <p>1. 障害の概念と ICF (障害者福祉の基本理念)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 共通する障害者福祉の理念 ② 時代の変化の中での障害者福祉の理念 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「完全参加と平等」および「機会均等化」－国際障害者年 ・ 「個人の尊厳」と「完全参加」－障害者基本法 ・ 「リハビリテーション」と「ノーマライゼーション」－障害者プラン ・ 「自立した日常生活」、「地域福祉の増進」、「本人の意向の尊重」－社会福祉法 ・ 地域社会のなかでの自立した生活の実現と社会－障害者自立支援法 ③ 障害の概念と国際生活機能分類 (ICF) <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際障害分類 (ICIDH) から国際生活機能分類 (ICF) への移行 ・ 国際生活機能機能の特徴
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かわり支援等の基礎的知識	1			1	<p>(内容)</p> <p>1. 肢体不自由 (身体障害)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 代表的な病気とその障害像 <ul style="list-style-type: none"> ・ 脳卒中 (脳血管疾患) ・ 脊髄損傷 ・ 間接リュウマチ ・ 脳性マヒ ② 生活援助のポイント <ul style="list-style-type: none"> ・ 残存機能の活用 ・ 福祉用具の活用 ・ 介護技術とリハビリテーション

				<ul style="list-style-type: none"> ③ 廃用症候群（生活不活発病） ④ 障害の受容 <p>2. 内部障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 代表的な疾患・障害 <ul style="list-style-type: none"> ・慢性呼吸不全（呼吸器機能障害） ・循環器疾患・心不全（心臓機能障害） ・慢性腎不全、血液透析（腎機能障害） ②. 生活援助のポイント <ul style="list-style-type: none"> ・日常活動量 ・自己管理 ・介護とリハビリテーション ③ その他の疾患・障害 <ul style="list-style-type: none"> ・膀胱・直腸機能障害 ・小腸機能障害 ・免疫機能障害（ヒト免疫不全、ウイルスによる免疫機能障害） ・肝臓機能障害 <p>3. 視覚障害・聴覚障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 視覚障害 <ul style="list-style-type: none"> ・疾患、白内障、緑内障、ほかの障害との合併 ・心理面の理解 ・日常生活への援助（自宅内の生活・屋外移動） ② 聴覚障害 <ul style="list-style-type: none"> ・疾患 ・心理面の理解 ・日常生活への援助 ③ 平衡機能障害 <ul style="list-style-type: none"> ・平衡機能障害とは ・原因と対応 <p>4. 音声・言語・咀嚼機能障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 失語症とその対応 ② 構音障害、発声障害 ③ 咀嚼・嚥下機能障害 <p>5. 精神障害</p> <p>6. 統合失調症</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 破瓜型統合失調症 ② 緊張型統合失調症 ③ 妄想型統合失調症 ④ 症状、初発症状 ⑤ 経過 ⑥ 治療（薬物療法とリハビリテーション） ⑦ 日常生活援助のなかでの介護者の役割と限界 ⑧ 日常生活援助の方法と留意点 <p>7. 躁うつ病等</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 病態、分類 ② 症状、初発症状 ③ 経過 ④ 治療（抗うつ薬、気分安定薬） ⑤ 日常生活援助のなかでの介護者の役割と限界 ⑥ 日常生活援助の方法と留意点 <p>8. 神経症性障害（神経症）</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 不安障害・恐怖症性不安障害 ② 強迫性障害 ③ 解離性障害 ④ 身体表現性障害 ⑤ ストレス関連障害
--	--	--	--	---

<p>(3) 家族の心理、かかわり支援の理解</p>	<p>1</p>	<p>1</p>	<p>⑥ 症状と経過、患者さんの心理、介護者としての望ましい関わり方</p> <p>9. アルコール依存症</p> <p>① 病態と症状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身体的問題 ・ 精神的問題 ・ 社会的問題 <p>② 日常生活援助のなかでの介護者の役割と限界</p> <p>10. 知的障害</p> <p>① 知的障害の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 知的障害とは、症状 <p>② 日常生活を支援するポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 支援の方法、支援のポイント <p>11. 発達障害</p> <p>① 発達障害の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自閉症（広汎性発達障害）、対人関係、社会性の障害、コミュニケーションの障害、興味の限界、常用行動 ・ 注意欠陥多動性障害（ADHD） ・ 学習障害 <p>② 日常生活を支援するポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 見えないものを理解することの困難 ・ コミュニケーションの障害 ・ 環境づくり ・ 応用の難しさ ・ こだわりへの対処 <p>12. ダウン症</p> <p>① ダウン症の特徴、症状</p> <p>② 日常生活を支援するポイント</p> <p>13. 高次脳機能障害</p> <p>① 原因疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 記憶障害 ・ 注意障害 ・ 遂行機能障害 ・ 半側空間無視 ・ 社会的行動障害 <p>② 診断基準</p> <p>③ 評価方法</p> <p>④ 対応方法</p> <p>(内容)</p> <p>1. 介護する家族の遭遇するストレス</p> <p>① 家族の変化と介護力の低下</p> <p>② 家族関係のアセスメント</p> <p>③ 介護による負担</p> <p>④ 介護者に多い、精神的ストレス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人間関係によるストレス ・ 怒りや恨み、孤独感などによる精神的苦痛 <p>2. 障害の理解と受容支援</p> <p>① 障害受容のプロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 先天性障害と中途障害 ・ 家族にとっての障害の受容 <p>② 介護する家族の類型</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現状逃避型、抱え込み型、周囲依存型 <p>3. 介護負担の軽減</p> <p>① 専門相談機関や民間介護相談の活用</p> <p>② 地域の社会資源の活用</p>
----------------------------	----------	----------	---

--	--	--	--	--	--

※記載内容は、要綱の別紙2の内容を網羅したものとする。

※講義と演習は一体的に実施すること。なお、科目9の(6)から(11)および(15)の実技演習は、実技内容等を記載すること。

※時間配分の下限は30分単位とする。